

座談会 ままごとの2017→2018

柴幸男を除くままごとの4人、
宮永琢生と大石将弘、端田新菜、加藤仲葉が2017年末に集合し、
毎年恒例となっている、1年の振り返りと新年への展望を語った。
2017年はそれぞれの活動に加え、F/Tで日台共同製作
『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』を上演したままごと。
2018年にはどんな展開を見せるのか。

それぞれの2017年

—まず、2017年はそれぞれにどんな1年でしたか？

端田 私は、名児耶ゆりちゃんとpacoの活動を始めた年でした。pacoは、小豆島で2013年からままごとがやってきたことや島の人と関わってきたこと、名児耶さんと私に子供が生まれたことから出てきた案で、私たちが小豆島で活動拠点にさせてもらっていた遊児老館という場所にちなんで、play、all、child、oldの頭文字をとってつけた名前です。それと、私と名児耶さんは、こどもと音楽の未来をつくる“おこわ”というプロジェクトにも参加していて、2017年はその両方の活動をしていました。あと柴くんの新作で初めて大石くんと共演できてよかったです！

大石 あははは。毎年それまでやったことがないようなことをやれるといいなと思っているのですが、2017年は多摩美術大学で週に1回授業をさせてもらって、俳優がどういふことをする生き物なのかを考え直す、いい機会になりました。それと、自分でプロジェクトを動かすことが増えていて、岸井大輔さんの企画やスイッチ総

研のスマートイルミネーションでの船上企画、それと横浜美術館で音声を展示することに取り組んだりしました。あと柴さん脚本のドラマに出演もしましたね。

加藤 今年は外部の仕事と劇団関係の仕事が半々くらいになりました。愛知・穂の国とよはし芸術劇場の市民と創造する演劇『はしっ子』には最初、制作助手で付いていたんですけど、気付いたら演出助手になってまして（笑）、生まれて初めて場当たりを回らせてもらいました。

端田 できたの？

加藤 周りの人がいろいろ支えてくださってなんとか（笑）。あと木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談一通し上演』の制作助手としてツアーを回らせてもらい、その間に『わたしの星』[2017 ver.]があって、制作チーフとして現場をゼロから回すことを初めてしました。その流れでF/Tがあり、ほかにもいくつかの公演現場につかせていただきましたね。

宮永 『わたしの星』[2017 ver.]に関しては、自分がこれから制作者として劇団公演に関わらないことがあるだろうと思っていたので、仲葉さんにゼロから全てお願いしました。そんなわけで、僕が2017年にちゃんと関わった演劇作品

はF/T17『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』くらいなんですけど、やってみてこれくらいのペースがいいなと（笑）。年に1本、集中して丁寧に創作する。自分の演劇に対峙する距離感として、そのくらいがちょうどいいなと思いました。精神的にも作品的にも。2017年は、贅沢にそういうことを試せた年でしたね。

2017年の忘れがたい出会い

—2017年もいろいろな出会いがあったと思いますが、中でも面白かったのは？

加藤 私は早稲田大学教授で翻訳家の水谷八也さん。『わたしが悲しくないのは〜』の翻訳監修をしてくださったんですけど、翻訳のクリス・グレゴリーさんとやりとりメールに私も入っていて、その応酬がなんてかっこいいんだと。水谷先生が「柴くんはこういう意図を持ってこう書いているから●●と表現したらいいんじゃないか」と話すと、クリスが「確かにそうですね。でもその表現だと硬いから」みたいなやりとりをしていて。

宮永 めっちゃクリエイティブだったよね！

加藤 そうなんです。字幕を見て涙してくださったお客様もいて、本当に貴重な体験でした。

大石 さっきお話した、音声を展示するプロジェクトで、目が見える人と見えない人で一緒に美術館に行き、おしゃべりしながら作品を鑑賞するってことをやっているんですけど、そこではみんな、目に見えるものと見えないものについて話すんですね。僕は美術に詳しくないですが、ある作品を見てどう思ったのかではなくて、その作品がどう見えるか、目に見えているものをあえて言葉にするんです。すると、見ているもの

座談会参加者（五十音順）



大石将弘
俳優



加藤仲葉
制作



端田新菜
俳優



宮永琢生
制作



(左上)「きくたびプロジェクト」より。(撮影：中島祐輔)
 (左下)「わたしが悲しくないのはあなたが遠いから」より。
 (撮影：濱田英明)
 (右) 写真左上から時計回りに宮永琢生、加藤仲葉、
 端田新菜、大石将弘

は一緒のはずなのに、ある人はそこに注目するんだ？ そう見えてるんだ？ という違いがあって面白くて。目が見える人たち同士だったら絶対に起き得ないコミュニケーションですよ。

端田 私は、出会った人ではなくて、悪魔のしるしの危口(統之)さんと、(制作の岡村)滝尾さんが亡くなったことが大きかったなあ。滝尾さんとは付き合いが長くて、危口さんとは特に深い関わりがあった訳ではないんだけど、私たちが小豆島で活動しているときにふらっと来てくださって、そのあと『星の記憶 -わが星小豆島滞在記-』の横浜での上映会でトークゲストにも出てくださった。そのトークで危口さん、「本気で世界を良くしたいと思ってる」とおっしゃってたんですね。それがとても印象的で。すごい人だなと思っていました。

宮永 F/Tでご一緒した台湾のプロデューサー、新田幸生さんと出会えたのが面白かったですね。フットワーク軽く世界のアーティストとつながり、柔軟に表現として形にできる人。本当に素敵な方でした。あとヨーロッパ企画・株式会社オポスの吉田和睦さんと10月に伊丹AI・HALL(若手制作者のためのアートマネジメント

講座『ヨーロッパ企画の歩み/ままごとの歩み ~われわれの来し方行く末~』でお話できたのが面白かったです。お話していく中で、ヨーロッパ企画とままごとはアウトプットの方法はまったく違うんだけど、実は共通している部分が多いんじゃないかなと。いわゆる劇団って、まずは作家や演出家主体で集団を引っ張って行って、俳優たちがそれぞれメディアで売れていくっていうのがスタンダードな形態だと思うんですけど、ヨーロッパ企画は主宰の上田誠さんが表現活動の中心にはいるけど、同時にメンバーそれぞれが個々に持っているポテンシャルを生かして劇団の仕事にしている。そこはままごともアプローチが似ているなと思っていて。劇団としての集団性というものに自覚的になってきたタイミングで、吉田さんのお話をうかがえて非常に感銘を受けましたね。

2018年はこれに注力!

——ズバリ、2018年に注力するものは?

端田 筋トレ!

全員 (笑)

端田 F/Tの時は事前にトレーニングが満足にできていなくて、体を鍛えることとセリフや段取りのこと、全部一緒にやって本当にキツかったので、今年は地道に取り組もうと。

宮永 僕は小豆島に家を作る。2016年に瀬戸内国際芸術祭『喫茶ままごと』で長期間小豆島に滞在して、以来、小豆島に“帰る場所”というか拠点を持ちたいという思いがありまして。

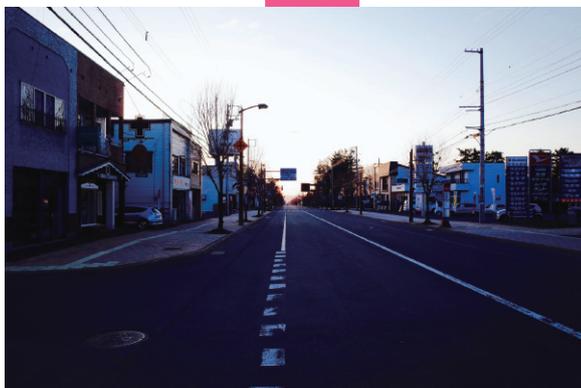
加藤 2016年はとんちきなくらい働いて、2017年はパンクしないで働き続けられるくらいには調整できたので、2018年はさらに余白を作れるようにしようと思って。その余白で、自分がやりたいことをやったり、快適に暮らせるようにしたいと思いますね。

大石 いっぱいあるんですけど…… 2018年はナイロン100℃本公演とままごとがあって、それと映像の仕事に興味があったので、経験をもう少し積みたいなど。

宮永 なんでもDIYだね。自分でその場所を作る。

大石 ああそうですね(笑)。あとは体づくりを含めて、演技の勉強をちゃんとしたいなって。もう少し自分を磨く1年にしたいなと思いますね。

1 新作『ツアー』が 4月STスポットで

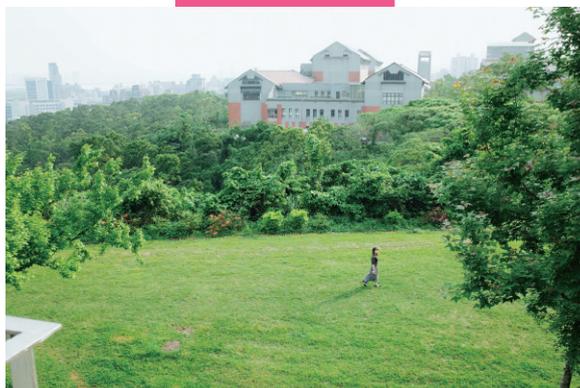


新作『ツアー』が、4月21日から30日まで神奈川・STスポットにて上演される。柴幸男が作・演出を手がけ、キャストにはままごとの大石将弘、端田新菜のほか、柴が講師を務める多摩美術大学で演劇表現を学んできた小山薫子が名を連ねる。F/T17『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』で共演経験のある3人が、本作でどのような化学反応を見せるのか。また2018年秋以降には、タイトルの通り全国ツアーを行う予定。上演をお楽しみに。

ままごと『ツアー』

2018年4月21日 [土] - 30日 [月・祝] @神奈川 STスポット
作・演出：柴幸男 出演：大石将弘、小山薫子、端田新菜

2 『わたしの星』が 台湾で『我的星球』に



2014年、2017年に上演された『わたしの星』が柴幸男演出のもと、台湾の高校生たちによってリクリエーションされ、『我的星球』として上演される。

柴の岸田國士戯曲賞受賞作『わが星』の世界観を引き継ぎ、火星に移住することになった人々とある転校生を巡って繰り広げられる本作。今回、「2018 臺南藝術節」参加作品として上演される本作では、オーディションで選ばれた台湾の高校生が、共に作品を立ち上げる。

2018 臺南藝術節『我的星球 (わたしの星)』

2018年3月31日 [土]・4月1日 [日] @台湾 臺南文化中心國際廳原生劇場
作・演出：柴幸男 出演：オーディションで選ばれた台湾の高校生

NEXT

● 大石将弘【創作・展示】

『きくたびプロジェクト 横浜美術館コレクション編』

2018年1月15日 [月] 公開 @神奈川 横浜美術館
<https://kikutabiproject.tumblr.com>

● 加藤仲葉【演出助手】

市民と創造する演劇『とよはしの街の物語』

作・演出・音楽：糸井幸之介 (FUKAIPRODUCE 羽衣)
ドラマツルク：木ノ下裕一 (木ノ下歌舞伎)
2018年3月3日 [土]・4日 [日]
@愛知 穂の国とよはし芸術劇場 主ホール
<https://www.toyohashi-at.jp/event/performance.php?id=397>

● 柴幸男【作・演出】

2018 臺南藝術節『我的星球 (わたしの星)』

作・演出：柴幸男 出演：オーディションで選ばれた台湾の高校生
2018年3月31日 [土]・4月1日 [日]
@台湾 臺南文化中心國際廳原生劇場
<http://www.tmcc.gov.tw/project/2018myplanet/>

● 柴幸男【作・演出】／大石将弘・端田新菜【出演】

ままごと『ツアー』

2018年4月21日 [土] - 30日 [月・祝]
@神奈川 STスポット

編集後記

「ままごとの新聞」20号を記念し、リニューアルいたしました！デザインは、ままごとのさまざまなチラシデザインや劇団員の似顔絵などを手がけたセキコウさん。今回は1面からどーんと、セキコウさんのイラストを使わせていただいています。ままごとは今年も、日本や台湾、さまざまな土地で活動します。「ままごとの新聞」もぜひ多くの方に届きますように。(熊井)

ままごとの新聞 20号

2018年1月発行
発行：一般社団法人 mamagoto
編集：熊井玲 デザイン：セキコウ

ままごと
mamagoto